

時事新報

第千三百六十號
明治十九年八月廿一日 土曜日
西曆一千八百八十六年

時事新報

薩摩沖繩間の海底電線

徳川政府の晩年邊海多事の折柄は世の所謂海防論者
なるも北門の鎖鑰の固からざるを憂へ専ら東洋の蝦
夷即ち今の北海道地方を用ゐるべきとあれども東洋の形

編民の迷惑は申す迄もなく内地の人々其事情を通知せ
るの便を得ず官私ともに幾多の不安を生ずるやも
測る可らず開く所はれば處處島嶼より那覇港に至る航
路三百七十三海里、一海里の海底電線沈没費は凡る二
千圓内外ありと云へば内地と沖繩との間に海底電線と

流行地虎列刺

八月十八日
京府府内

Table with columns for prefectures (e.g., 京府, 大阪府, 神奈川縣) and columns for '流行地' (epidemic area) and '虎列刺' (cholera cases).

Table listing various prefectures (e.g., 京府, 大阪府, 内閣府) and their corresponding statistics for cholera cases (虎列刺).

○軍用電信隊 陸軍の軍用電信隊は従來數十名の
技手を備へて日々本職時電信使用等の演習を爲さしめ

此法は電
線は其材
て之を電
輸入し來
隨自國
多年間
電信局
て電信局
兎角思
七倍す
今若し
常の利益
合して電
早中の
研究中
云々此迄
熱に遇
法を用ひ
見込あり
○關都ア
烈なる騒
中には府
付くを捕
この遊を
てこの人
となりそ
破さて之
るより又
なり又
なる多
調たるに
七十人
七日の夜
七人の手
到るに
に附る
派遣した
兵を遣ふ
露國海軍
國の近來
船を擧
米國領事
○米國領事
キンスナ
りたるに付
其損害の